

1-2

V-Loc™を使用した消化管縫合の経験

石川県立中央病院 消化器外科¹⁾, 消化器内科²⁾

森山秀樹¹⁾, 稲木紀幸¹⁾, 安部孝俊¹⁾, 佐藤礼子¹⁾, 奥出輝夫¹⁾, 北村祥貴¹⁾, 小竹優範¹⁾, 黒川 勝¹⁾, 伴登宏行¹⁾, 土山寿志²⁾, 山田哲司¹⁾

【はじめに】

当科では胃粘膜下腫瘍に対して2010年に腹腔鏡内視鏡合同手術（以下LECS）を導入した。最近ではLECSによる胃部分切除後の縫合閉鎖にV-Loc™を用いており，その使用経験を報告する。

【対象】

2012年1月から2013年4月までの期間に， V-Loc™を用いた胃壁縫合閉鎖を5例に施行した。また， LECSにおける使用経験を基に，腹腔鏡下胃切除術の消化管再建にV-Loc™を使用した。

【結果】

糸の緩みがなく，縫合終了時の結紮が不要であり，通常の糸を用いた縫合と比較して手技が容易であった。術中および術後経過において，V-Loc™に起因した合併症は認めなかった。

【考察】

V-Loc™を用いた消化管縫合を50例以上経験したが，短期成績としては満足のいく結果であった。標準的な手技となるには中長期の成績が必要であると考えられた。今後も症例を蓄積し成績を報告していきたい。